

リキッドバイオブシーについて

◎山中 智樹¹⁾ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 カスタマーフロント本部 シークエンス担当¹⁾

2017年 ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社の発売したコバスEGFR変異検出キット v2.0は、国内で初めてリキッドバイオブシー検査薬として薬事承認され、保険適応を受けました。第一世代・第二世代のEGFR-TKIによる治療をおこなう非小細胞肺癌患者において、薬剤耐性を示した患者のT790M変異に対する治療薬であるオシメルチニブの適応を判定することを目的としていました。治療を続けるがん患者に対し、少しでも体の負担が少ないリキッドバイオブシー検査として利用の始まったコバスを皮切りに、その後いくつかのリキッドバイオブシー検査が侵襲性の少ない検査として薬事承認され臨床現場でも用いられています。

一方で、次世代シーケンサーという新しい遺伝子解析の機器が臨床検査にも用いられるようになり、がんゲノム医療の普及など、ここ数年医療に大きく関与しています。次世代シーケンサーは、従来の方法に比べて、ゲノム上の広い領域の配列決定を同時に行うばかりでなく、同じ領域を深く配列決定できる機器です。つまり、次世代シーケンサーを用いることで非常に頻度の少ない変異を検出することが可能になりました。次世代シーケンサーをリキッドバイオブシー検査に用いることで、リキッドバイオブシーの可能性はさらに広がります。

今回は、リキッドバイオブシーについて、今後の可能性なども含めてお話しさせていただきます。